

資産運用レポート：壊れた IPO

1 はじめに

下図は、東日本大震災が引き起こした原発事故により、東京の街の灯りも投資家の心も暗かった、2011年7月末における翻訳センター（2483）の株価チャートです。

相場が高値を付けていた2006年4月にIPOを行った同社株は、リーマンショックによる世界株安に巻き込まれ、高値の1/13まで下落するという目も当てられない状況でした。

企業向け技術翻訳を手がけていることもあり、売上・利益とも落ち込んでいたものの、一定の収益は確保していました。未曾有の大不況の中では、割と持ちこたえていたほうです。

しかし、株という株がことごとく売られる状況にて、株価が92,600円（株式分割修正後926円）まで下落していました。バリュエーション面では魅力的な水準でした。

- PER : 11.1倍
- PBR : 0.7倍
- 配当利回り : 4.3%

しかも同社は、1,560百万円の時価総額に対し、1,660百万円の現預金を保有していました（有利子負債はありません）。

未だに「心の折れていなかった」投資家にとっては、食指の動く株価水準です。この銘柄を、買って持っていれば、どうなったでしょうか。

★翻訳センター 株価チャート（上場来～2011年7月）

